

講義コード	1R047014
講義名	医学概論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	医学および医学検査の基礎とその疾病との関係
科目ナンバリング	R1-2113
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 若山 育郎	指定なし

担当教員

若山育郎

講義の目的

現代における医療問題を理解する。

到達目標

自分なりの考え方・意見を持つことができる。

授業計画表

授業計画

1. 論文の書き方
2. ワクチン
3. 医療とSNS
4. 出生前診断
5. 献体
6. 医学と倫理
7. 遺伝性疾患
8. 神経難病
9. 臓器移植
10. 往生際の形
11. 臨床試験
12. 死ぬ瞬間、死の受容
13. 積極的安楽死
14. 癌の終末期医療
15. 総括

成績の評価

小論文を課し、それを評価する。

自己学習

新聞、インターネットなどの医療記事に目を通すこと。

履修上の注意

出席すること、ノートを取ること。

テキスト

特に指定しない。

参考文献

特に指定しない。

オフィスアワー

火曜、水曜の午後0時30分～1時

研究室

1号館205研究室

授業用E-mail

wakayama@kansai.ac.jp

講義コード	1R065014
講義名	英語表現法Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1302
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 仁志	指定なし

講義の目的

現代の社会や世相に関する英文を読み、その話題について英語で表現できるようになること。

到達目標

聴解・読解・文法・作文の演習を通して英語の特質を理解すること。

授業計画表

授業計画

1. 盛んになる国際観光
2. 海外で上昇する日本食の人気
3. ホームステイ
4. オリンピックとパラリンピック
5. ノーベル賞
6. 健康維持
7. 就職活動
8. 大学改革
9. スマートフォンの利点と欠点
10. 日本の宇宙科学の快挙
11. 日本の食料自給率
12. 低い出生率と高齢化社会
13. 地球温暖化
14. 拡大する貧富の格差
15. マナーの悪さ

成績の評価

定期試験70%、平常点30%で評価します。

自己学習

入念な予習を期待します。

履修上の注意

必ず(電子)辞書を持ってきてください。

テキスト

木塚晴夫(著), 『文法・用法もよくわかるトピック英作文15章』(鶴見書店)
ISBN 978-4-7553-0379-1

オフィスアワー

月曜日以外の昼休み時間。

研究室

5号館7階 C720 研究室

講義コード	1R066015
講義名	英語表現法Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1303
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 佐々木 敏光	指定なし

担当教員

佐々木 敏光

講義の目的

時事英語を読むことを通して、国際的なものの見方、考え方を身につける。

到達目標

- ①時事英語のスタイルに慣れる。
- ②背景知識を持つ。
- ③英語の構文を確認しながら、本文の内容を読み取る。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス
2. Unit 1 研究： DNAが夜型か朝方かを定める可能性
3. Unit 2 日本は「民宿」の増加にどう対処すべきか
4. Unit 3 外国人の道案内に役立つ新しい地図記号
5. Unit 4 ホテル、宿泊客の健康に配慮したオプションを拡張
6. Unit 5 大学、学生の正しい食事習慣の奨励に努力
7. Unit 6 ディカプリオと法王、環境について議論
8. Unit 7 不快なゴキブリ型ロボットが災害に役立つ可能性
9. Unit 8 電機メーカー再編成計画、見直しが求められる可能性
10. Unit 9 田舎での生活を選ぶ若者が増加
11. Unit 10 イチロー、通算4,257安打でローズ越え
12. Unit 11 英国、遺伝子編集実験を容認
13. Unit 12 スポーツ、国や文化の隔たりを埋める助けに
14. Unit 13 119番への緊急通報、70%が不必要とみなされる
15. Unit 14 大学の研究、「白人化」されたハリウッドを発見

成績の評価

50

30

20

定期考査 %，復習テスト %，平常点 %で評価します。語学は継続して学習することが大切であり，出席を重視します。

自己学習

英文の構造に注意しながら，大意を読み取る努力をしてください。わからない語句は辞書で調べておくことが大切です。

履修上の注意

- ①復習テストを実施します。
- ②授業に辞書（電子辞書可）を持ってきてください。

テキスト

「Meet the World-English through Newspapers-2017 メディアで学ぶ日本と世界2017」（成美堂）
若有 保彦

参考文献

講義の中で紹介します。

オフィスアワー

木曜日昼休憩の時間。

研究室

1号館2階 講師控室。

講義コード	1R085014
講義名	環境と健康
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1210
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 松本 健治	指定なし

担当教員

松本 健治

講義の目的

人間の健康だけでなくあらゆる生命体の生命の質（QOL）は様々な環境要因によって左右される。種々の環境を理解したうえで、様々な環境が人間の心身にどのような影響をあたえるのかを学習する。

到達目標

環境と健康の関連についての考え方や環境・健康学の基礎を学習したうえで、具体的内容として健康に影響を及ぼす様々な環境因子と疾病・障害予防対策が理解できるようになり、将来、医療専門職としての基礎的な知識が身に付く。

授業計画表

授業計画

1. 環境と健康
環境と人間との相互関係、生態系の営み
2. 物理的環境（その1）
温熱条件、騒音、振動
3. 物理的環境（その2）
電磁波、異常気圧
4. 化学的環境（その1）「空気と健康」を中心に
5. 化学的環境（その2）
有害化学物質の吸収、体内蓄積、排泄、症状、
障害の予防、変異原と催奇形原
6. 生物的環境
病原微生物、病原体を保有または媒介する動物
7. 生物的環境：寄生虫、有毒動植物を中心に
8. 食物環境：食の安全性をめぐって
9. 衣服と住居環境
快適条件、シックハウス症候群

- 10. 水をめぐる問題：水と健康
- 11. 公害の人間生活への影響
身体的・精神的・心理的影響、防止対策、
環境保全の原則
- 12. 地球環境問題（その1）
地球環境と生活、残留性有機汚染物質、
内分泌攪乱化学物質、有害廃棄物の越境移動
- 13. 地球環境問題（その2）
オゾン層の破壊、地球温暖化
- 14. 地球環境問題（その3）
酸性雨、砂漠化、熱帯林減少、野生生物種減少、
海洋汚染
- 15. 地球環境問題（その4）とまとめ
地球環境問題への取り組み

成績の評価

国試形式による試験40問（80%）と出席状況とミニレポートを含む受講態度（20%）で評価します。

自己学習

学習内容の理解度を深めるため、講義の復習と事前配布資料で予習することが肝要です。

履修上の注意

無断欠席は最悪。毎回ミニレポートを課します。

テキスト

1週間以上前に講義内容の抄録と関連資料を配布します。

参考文献

適宜、紹介します。

オフィスアワー

開講時限の前後休憩時間

研究室

講師控室

授業用E-mail

kenmatsu@wakayama-med.ac.jp

講義コード	1R130011
講義名	公衆衛生学Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	保健医療福祉と医学検査
科目ナンバリング	R1-2201
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榎田 高士	指定なし

担当教員

榎田 高士

講義の目的

公衆衛生学は健康の科学である。日本の社会は、今や経済成長率の鈍化、産業構造の高度化、人口の高齢化、社会の複雑化などに伴い、病気や死因の構造も変化し、人々が保健医療に期待することからも変わってきている。人々の健康増進にかかわる医療職として健康づくりやプライマリケアなど、保健医療の資源と人々を結びつける仕組みを理解する必要がある。本稿では医療に携わる者の常識として知っておくべき項目について講義する。

到達目標

人々の健康に影響を及ぼす様々な要因について理解し、さらに、各次元におけるそれぞれの特質に合わせた公衆衛生学的な取り組みについて理解できる。

授業計画表

授業計画

1. 公衆衛生学の意義（序論）
2. 健康の概要、保健統計①：健康指標
3. 保健統計②・疫学①：疾病量の把握
4. 疫学②：疫学の方法
5. 疾病予防と健康管理：健康増進
6. 疾病予防と健康管理、感染症の予防
7. 環境保健①生物学的環境要因
8. 環境保健②生物学的環境要因
主な疾病の予防①感染症法・学校で予防すべき感染症
9. 主な疾病の予防②予防接種
10. 主な疾病の予防③循環器系の疾患
11. 主な疾病の予防④メタボリックシンドローム
12. 主な疾病の予防⑤悪性新生物
13. 主な疾病の予防⑥腎疾患などその他
14. 環境保健 人間の環境・環境の把握とその評価

15. まとめ

成績の評価

期末試験で評価を行う。

自己学習

講義の前にテキストの該当箇所を通読しておくことが望ましい

履修上の注意

この科目は現代社会における健康・医療・福祉・環境等に関する話題が中心となります。常に新聞・雑誌など多くのメディアから提供される新しい情報を収集して積極的に学習してください。
配布したプリントは必ず整理して講義に持参すること。

テキスト

シンプル衛生公衆衛生学 2017 (南江堂)
監修：鈴木庄亮、久道 茂 編集：小山 洋、辻 一郎
講義内容を補うプリントを随時配布します。

参考文献

「臨床検査学講座 第2版 公衆衛生学」 (医歯薬出版)
「国民衛生の動向 2016/2017版」 (厚生統計協会)
「よくわかる専門基礎講座 公衆衛生」 (金原出版)

オフィスアワー

木曜日 12:00-13:00 その他、在室時

研究室

診療・研究棟3階301研究室

授業用E-mail

umeda@kansai.ac.jp

講義コード	1R131011
講義名	公衆衛生学Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	保健医療福祉と医学検査
科目ナンバリング	R1-2202
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 宮本 邦彦	指定なし

担当教員

宮本 邦彦

講義の目的

公衆衛生学Ⅱでは、人間集団の健康保持と増進、生命の延長を図るため、生活環境の衛生や環境の管理を理解すると共に、日本の社会で実践されている保健福祉を分野別に地域保健、母子保健、学校保健、産業保健、精神保健、高齢者保健、精神保健、国際保健に分けて学ぶ。また、医療福祉の制度と法規について学ぶ。

到達目標

人々の健康に影響を及ぼす様々な要因について理解し、日本で実施されている手法を理解し、よりよい手法として発展するために必要なことはなにかを考えることができるようになること

授業計画表

授業計画

1. 環境保健：水・衣食住の衛生
2. 環境保健：公害・環境の管理
3. 地域保健と保健行政・保健制度の仕組み
4. 母子保健
5. 学校保健
6. 中間試験
7. 産業保健①：職業と産業・労働災害
8. 産業保健②：職業病・健康診断・健康増進
9. 高齢者保健・福祉①：高齢者の生活と健康
10. 高齢者保健・福祉②：高齢者保健・福祉対策・介護保険
11. 精神保健①：精神保健の概要
12. 精神保健②：精神保健福祉活動
13. 国際保健医療
14. 健医療福祉の制度と法規
15. まとめ

成績の評価

定期試験の成績（45%）、中間試験成績（45%）、提出物（10%）等を合わせて評価する。

自己学習

講義の前にテキストの該当箇所を通読しておくこと。追加資料は試験範囲に含まれます。整理し保管しておいてください。

履修上の注意

この科目は現代社会で話題となる環境・保健・医療・福祉などに関する話題が含まれます。常に新聞・雑誌など多くのメディアから提供される新しい情報を収集して積極的に学習してください。

テキスト

「シンプル衛生公衆衛生学 2016」（南江堂）監修：鈴木庄亮 編集：小山 洋・辻 一郎

参考文献

「臨床検査学講座 第2版 公衆衛生学」（医歯薬出版）
「国民衛生の動向 2013/2014版」（厚生統計協会）
「よくわかる専門基礎講座 公衆衛生」（金原出版）

講義コード	1R139025
講義名	国語表現法
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1301
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 南山 かおり	指定なし

担当教員

南山 かおり

講義の目的

この講義は、コミュニケーション手段の一つとしての「文章表現」について論じる。文章による伝達は、今や現代社会において、大きな比重を占めるようになってきた。私たちは、日常生活の様々な場面で、日本語によって文章を綴ることを避けることはできない。それは、医療の現場においても、また同じである。カルテや紹介状の作成等、現場では常に正確で明瞭な文書の作成を要求されるだろう。よって、講義の中では、自らの意図するところを的確に表現し、よりよい文章を書くためには何が必要か、身近な事例を通して考えてゆくことにする。

到達目標

的確な言語表現を実現するため、まずは、その表現媒体である「日本語」についての知識を深め、興味を喚起することを第一の目標とする。さらにその上で、本当によい文章とは何か、正確に伝えるには何が必要か、について、自身の基準を持てるようになること、それが第二の目標である。このことによって、実際の表現の場においても、常に慎重に自らの日本語を見つめ、より深いコミュニケーションを実現する力が身につくものとする。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス — 授業の概要と成績評価について
2. Ⅰ. ことばに敏感になる — 1. 語感をつかむ
3. Ⅰ. ことばに敏感になる — 2. 「思う」と「考える」
4. Ⅰ. ことばに敏感になる — 3. 「ある」と「いる」
5. Ⅰ. ことばに敏感になる — 4. 語源を意識する
6. Ⅰ. ことばに敏感になる — 5. 派生語に注目する
7. Ⅰ. ことばに敏感になる — 6. 漢字と漢語
8. Ⅰ. ことばに敏感になる — 7. 漢語の特徴
9. Ⅱ. 文の構造を考える — 1. 「ハ」と「ガ」はどう違うか

- | | | |
|-------------------|---|----------------|
| 10. II. 文の構造を考える | — | 2. 「ハ」の働き |
| 11. II. 文の構造を考える | — | 3. 「ガ」の働き |
| 12. II. 文の構造を考える | — | 4. 「ハ」の文、「ガ」の文 |
| 13. III. ことばは変化する | — | 1. ことばの揺れを観察する |
| 14. III. ことばは変化する | — | 2. 「ら抜きことば」の問題 |
| 15. III. ことばは変化する | — | 3. 情報の使い方 |

成績の評価

レポート提出50%・レポート内容40%・平常点10%
(なお、詳細については、授業時に伝える)

自己学習

講義中に紹介した参考図書や、その他の日本語に関する本を読む等して、平生から「日本語に対する興味・理解を深める」ことを心がける。

履修上の注意

課題のレポートは必ず提出すること。未提出の場合は単位を認定できない。

また、不必要な私語や途中退席等、授業の妨げになる行為は慎むこと。指示を守れない者は出席を認めないので注意すること。

テキスト

毎回、授業時にプリントを配布。

参考文献

- 「日本語練習帳」 (岩波新書) 大野晋
「日本語はおもしろい」 (岩波新書) 柴田武
「私家版 日本語文法」 (新潮文庫) 井上ひさし
「日本語はなぜ変化するか」 (笠間書院) 小松英雄

講義コード	1R156012
講義名	社会文化人類学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1212
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 岩谷 洋史	指定なし

担当教員

岩谷 洋史

講義の目的

人類学とは人類の文化・社会の多様性と普遍性を探究する総合的学問である。本講義では、人類学の基礎を学ぶことを目的とする。重要なのは、人類学における文化の捉え方、視点や考え方を身につけることである。講義では、まず人類学の考え方や研究方法、研究対象などの事項について解説し、異文化理解のための基礎的な枠組みを提供する。次に、人類学の主要な研究テーマの一部を具体的に紹介する。わかりやすいように、ビデオ映像などの視聴覚教材などを用いながら行う。

到達目標

異文化を理解すると同時に、わたしたちにとっては、「あたりまえ」だと思っている自文化を相対化して考えることができる能力を養う。

授業計画表

授業計画

1. 人類学とはなにか？
2. 「文化」について考える
3. 人類学の視点：文化相対主義とはなにか？
4. 人類学の流れ：「他者」はどのように見られてきたのか？①
5. 人類学の流れ：「他者」はどのように見られてきたのか？②
6. 人類学の方法：フィールドワークとエスノグラフィー
7. 人類学の方法：フィールドワークとエスノグラフィー
8. 世界のいろいろな人びと：狩猟採集民の暮らし
9. 世界のいろいろな人びと：牧畜民の暮らし
10. ジェンダーとセクシュアリティ①
11. ジェンダーとセクシュアリティ②
12. モノの意味と交換①
13. モノの意味と交換②
14. 「宗教」について考える①

15. 「宗教」について考える②

成績の評価

平常点（出席点含む）：20%
授業期間中の小レポート：30%
最終レポート：50%

自己学習

- ・資料を配布するので、授業前や授業後には、資料を読むこと。
- ・自分の身の回りの生活スタイルをよく考えてみる。

履修上の注意

積極的に、自分の意見を述べてもらう。

テキスト

授業内で資料を配布する。

参考文献

適宜、紹介する。

授業用E-mail

iwatani_hiro@mac.com

講義コード	1R169025
講義名	情報科学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	5時限
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1106
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 竹村 匡正	指定なし

担当教員

竹村 匡正

講義の目的

昨今の情報社会の流れの中で、医療においても当然のように情報を取り扱っている。これには、検査機器が高度な情報システムとして扱われているばかりではなく、病院情報システムの導入による患者情報の共有や、病院経営への利用が進んでいる。

本講義では、医療における情報の利用について、実際の病院情報システムや先進的な事例などを広く紹介し、理解を深めると同時に今後の学生生活における基本的な情報リテラシーの習得することを目指す。

到達目標

医療における情報の利用について、また情報が医療に与える影響について、実例を含めて広く知識を習得する。と同時に、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト等、今後の勉学における基本的な情報の利活用の方法を習得する。

授業計画表

授業計画

1. 医療と情報1
2. 医療と情報2
3. 病院と情報1 (病院のしくみ)
4. 病院と情報2 (病院情報システム)
5. 病院と情報3 (病院運営)
6. 地域医療連携システム (EHR)
7. 最先端情報技術と医療
8. 医療の情報化の今後
9. 臨床検査技師と情報科学
10. ワープロソフト演習
11. 表計算ソフト演習
12. 表計算ソフト演習
13. プレゼンテーションソフト演習

14. プレゼンテーションソフト演習

15. まとめ

成績の評価

授業時間内での課題提出

課題は4つを予定 (25%)、平常点20%の計100%

自己学習

基本的には問いませんが、動画等の資料をなるべく準備しますので、ぜひ興味を持って見直してください。講義後に参考文献を読むと、実感ができると思います。

履修上の注意

基本的に授業時間内での課題提出になるので、欠席をしないこと。

テキスト

資料を配布します。

参考文献

「現代電子情報通信選書 知識の森 医療情報システム」
(オーム社) 電子情報通信学会編 黒田知宏監修

講義コード	1R171024
講義名	食品栄養学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	食品衛生学
科目ナンバリング	R1-3601
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 黒木 知美	指定なし

担当教員

黒木 知美

講義の目的

5大栄養素における構造、性質、消化、体内での働き、必要量について、また病態別栄養や各ライフステージにおける栄養学的特徴を講義する。

到達目標

生体内での栄養素の役割および代謝について学び、栄養学の全体像をつかむ。

授業計画表

授業計画

1. 栄養と栄養素
2. 炭水化物
3. 脂質
4. タンパク質
5. 無機質
6. ビタミン
7. 消化と吸収
8. エネルギー代謝
9. 日本人の食事摂取基準
10. 栄養状態の評価
11. 年齢と栄養
12. 生理と栄養
13. 病態と栄養 (糖尿病)
14. 病態と栄養 (脂質異常症、高血圧)
15. 病態と栄養 (腎臓病)

成績の評価

試験 (60%) 平常点 (10%) ノート提出 (20%) 小テスト (10%)

履修上の注意

授業ノートを作り、平素からまとめて理解を深めておくこと

テキスト

授業時に必要に応じてプリントを配布する

参考文献

「5訂 日本食品標準成分表」

「第7版 糖尿病食事療法のための食品交換表」

講義コード	1R174013
講義名	心と身体の健康
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1203.1
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 郭 哲次	指定なし

担当教員

郭 哲次

講義の目的

近年、様々なメディアを通して「心の病」や「心身症」の増加、特にうつ病患者などの著しい増加が叫ばれるようになり、世界的にもメンタルヘルスへの関心が高まっている。一方からだや身体的疾病への、私たちの理解は少し深まったが「こころの健康」「精神の病」についての理解には、著しい先入観や偏見が多く、十分であるとは言い難い。ここで、いま、医療人として「私たちは心をどうとらえたらよいのか?」、「心と身体にはどういうつながりがあるのか?」、「健康な心と病める心は異なるものなのか?」のテーマに対してもう一度考え直し、<心と身体の間にも生まれてくる様々な困難や病>を概観しながら、『心と身体の健康』について深く考える機会を持つ。これにより、医療人として基本的に身につけるべき『心と身体の健康』のあり方を学ぶことを目的とする。

到達目標

健康人の心のあり方や基本的なこころの障害を十分に理解し医療に役立てることができる

授業計画表

授業計画

1. 総論
2. 物忘れは異常か? (認知症)
3. うつは治りにくいのか? (気分障害)
4. 幻覚妄想はなぜ起こる? (統合失調症)
5. 不安は異常か? (神経症性障害)
6. 行動パターンの偏りは病気か? (成人の人格・行動の障害)
7. 主要な精神障害のまとめ
8. 身体の異常が精神の異常を引き起こすか?
(器質性精神障害)
9. けいれん? ふるえ? (てんかん)
10. アルコールの依存

11. 薬物の依存
12. 児童・青年期の精神障害
13. 睡眠と健康・睡眠障害
14. 運動とこころまたは疼痛
15. 総まとめ

成績の評価

原則：試験（一部レポートを含む）80%
授業態度20%、熱意のある積極的な態度必要！
ルール違反はすべて減点対象

自己学習

教科書で予習・復習。毎日の新聞等、社会の出来事・講義に関係のある記事に批判的な目で注意を向ける。

履修上の注意

講義は下記のテキストを用いる。辞書、ノートの役割として使用。
パワーポイント（テキスト中必須の内容）による講義により、授業中に、書き込み、マーカーを入れるなどカスタマイズして「独自の教科書」をつくること。
パワーポイントの内容を書き写す作業をしないで講義をよく聞くこと（パワーポイントの内容はすべて教科書中にある）。
プリントは聞き漏らしたことなどを把握するための単なる補助的なツールで、主として受講する講義において十分に把握すること。

テキスト

第2版 コメディカルのための専門基礎分野精神医学 中外医学社

参考文献

適宜紹介する

オフィスアワー

木曜日12時から約1時間、原則として事前予約が必要

研究室

診療・研究棟4階403研究室

授業用E-mail

tkaku@kansai.ac.jp

講義コード	1R187025
講義名	人体の機能Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	人体の構造と機能
科目ナンバリング	R1-2004
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大島 稔	指定なし

担当教員

大島 稔

講義の目的

生理学 (Physiology) は万人に共通する身体の仕組みについて探求する学問である。「生理学は医学のベースとなる科目で、コメディカルに共通して重要な学問領域である。この生理学は動物性機能と植物性機能に大別することができるが、「人体の機能Ⅰ」では植物性機能、つまり、循環器系、呼吸器系、消化器系、排泄器系、生殖器系、内分泌系の機能について学習する。

到達目標

以下に記したテキストに記載されている人体の機能の仕組みについて理解することを到達目標にしてください。

授業計画表

授業計画

1. 生理学基礎と体液
2. 血液
3. 生体防御
4. 循環 (心臓の働き)
5. 循環 (循環の調節)
6. 呼吸
7. 消化と吸収 (口腔から小腸)
8. 消化と吸収 (大腸と肝臓)
9. 代謝と栄養
10. 尿の生成と排泄
11. 体温
12. 内分泌 (視床下部と下垂体)
13. 内分泌 (甲状腺、膵臓)
14. 内分泌 (副腎)
15. 生殖

成績の評価

試験（100点）以外に小テスト（2点）を5回行い（計10点）、その合計で評価します。合計が100点を越えた場合は100点とします。

自己学習

教科書を読み、予習復習を行うこと。小テストは宿題から出題するので、それを勉強しておくこと。

履修上の注意

座席指定を行い、そこに座っていることで出席を取ります。

テキスト

「やさしい生理学」南江堂 改訂第6版
彼末一之、能勢博 編集

参考文献

講義中に紹介する。

オフィスアワー

時間があるときであれば、いつ部屋に来ていただいても対応します。

研究室

診療・研究棟4階404研究室

授業用E-mail

ohshima@kansai.ac.jp

講義コード	1R188025
講義名	人体の機能Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	人体の構造と機能
科目ナンバリング	R1-2005
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大島 稔	指定なし

担当教員

大島 稔

講義の目的

生理学 (Physiology) は万人に共通する身体の仕組みについて探求する学問である。この学問領域は基礎医学の中でも特に重要な科目の一つで、あらゆる西洋医学のベースとなる領域である。臨床検査技師においてもその重要性にかわりはない。一般に生理学は、動物性機能と植物性機能に大別することができるが、「人体の機能Ⅱ」では神経系・運動器系・感覚器系を中心とする動物性機能について学習する。

到達目標

以下に記したテキストに記載されている人体の機能の仕組みについて理解することを到達目標にしてください。

授業計画表

授業計画

1. 筋収縮 (収縮の仕組み)
2. 筋収縮 (エネルギー供給)
3. 神経系の基礎 (興奮の伝導と伝達)
4. 神経系の基礎 (末梢神経系)
5. 自律神経 (作用)
6. 自律神経 (伝達物質と受容体)
7. 中枢神経系 (脊髄と脳幹)
8. 中枢神経系 (大脳)
9. 中枢神経系 (脳波と睡眠)
10. 感覚 (視覚)
11. 感覚 (聴覚と平衡感覚)
12. 感覚 (味覚、嗅覚、体性感覚)
13. 運動 (運動単位)
14. 運動 (反射)
15. 運動 (錐体路と錐体外路)

成績の評価

試験（100点）以外に小テスト（2点）を5回行い（計10点）、その合計で評価します。合計が100点を越えた場合は100点とします。

自己学習

教科書を読み、予習復習を行うこと。小テストは宿題から出題するので、それを勉強しておくこと。

履修上の注意

座席指定を行い、そこに座っていることで出席を取ります。

テキスト

「やさしい生理学」南江堂 改訂第6版
彼末一之、能勢博 編集

参考文献

講義中に紹介する。

オフィスアワー

時間があるときであれば、いつ部屋に来ていただいても対応します。

研究室

診療・研究棟4階404研究室

授業用E-mail

ohshima@kansai.ac.jp

講義コード	1R189013
講義名	人体の機能実習
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	1 時限
科目分類・分野名	人体の構造と機能
科目ナンバリング	R1-2006
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大島 稔	指定なし

担当教員

大島 稔、櫻葉 均

講義の目的

人体の機能Ⅰ・Ⅱで学習した内容をさらに深く理解するため、幾つかの生理学の項目について実習講義と実習を行う。実習の項目は以下の通りである。

- ①肺気量の測定 ②皮膚感覚：感覚点と二点弁別 ③心機能（心電図と心音） ④循環（脈波）
⑤血液と体温

到達目標

人体の機能ⅠとⅡで学習した内容をさらに深く理解し、自分の知識として確立させることを到達目標としてください。

授業計画表

授業計画

1. 実習講義（肺気量）
2. 実習（肺気量）
3. 実習講義（感覚点と二点弁別）
4. 実習（感覚点と二点弁別）
5. 実習講義（血液と体温）
6. 実習（血液と体温）
7. 実習講義（心電図）
8. 実習（心電図）
9. 実習講義（心音）
10. 実習（心音）
11. 実習講義（脈波）
12. 実習（脈波）

成績の評価

レポート60点、試験40点で評価します。

自己学習

事前にテキストを読み、理解できない個所を抽出しておくこと。

履修上の注意

実習は積極的に参加すること。

テキスト

実習中にプリントを配布する。

参考文献

「やさしい生理学」南江堂 改訂第6版
彼末一之、能勢博 編集

オフィスアワー

時間があるときであれば、いつ部屋に来ていただいても対応します。

研究室

診療・研究棟4階404研究室

授業用E-mail

ohshima@kansai.ac.jp

講義コード	1R194025
講義名	人体の構造 I
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	2 時限
科目分類・分野名	人体の構造と機能
科目ナンバリング	R1-2001
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 東家 一雄	指定なし

担当教員

東家一雄

講義の目的

人体の構造は医療系教育の初期段階で学ばねばなりません。なぜなら、臨床検査技師としてヒトの検体を取り扱うには、身体をつくる要素（細胞、組織、臓器など）の形や構造、配置などを正しく理解しておく必要があるからです。この授業ではヒトの身体の構造を系統的に取り扱う人体系統解剖学に関して、特に骨格系、筋系、脈管系の成り立ちについて学ぶことを目的とします。

到達目標

本科目を学ぶことにより、ヒトの身体は細胞から器官系に至る諸要素が構造的に調和と関係を保ちながら成り立っていることを理解して、その諸要素の構造について体系的に、かつミクロとマクロの多角的視点から考察できるようになることを目指します。また、受講生が人体解剖学という学問領域への関心を深めて自ら積極的に学修する姿勢を身につけ、学んだ知識を他の専門科目の理解につなげる基礎にして欲しいと考えています。

授業計画表

授業計画

- 第1回 講義ガイダンス、人体の成り立ち①（細胞）
- 第2回 人体の成り立ち②（細胞、組織）
- 第3回 人体の成り立ち③（組織、ヒトの発生）
- 第4回 人体各部の名称、骨系①（全身の骨格、骨の一般）
- 第5回 骨系②（頭蓋の骨、脊柱の骨）
- 第6回 骨系③（胸郭の骨、骨盤の骨）
- 第7回 骨系④（上肢の骨、下肢の骨）
- 第8回 筋系①（筋の一般）
- 第9回 筋系②（頭頸部の筋、胸部の筋）
- 第10回 筋系③（腹部の筋、背部の筋）
- 第11回 筋系④（上肢の筋、下肢の筋）
- 第12回 脈管系①（血管の一般、心臓）
- 第13回 脈管系②（心臓、動脈系）

第14回 脈管系③（動脈系）

第15回 脈管系④（胎児循環、静脈系、リンパ系）

成績の評価

第8回に実施を予定している中間テストの成績（50%）と定期試験期間中に行う筆記試験の成績（50%）に基づき評価します。

自己学習

授業の進行に沿って主体的かつ積極的に予習と復習を行い、授業内容をよく理解、吸収するよう各自が努めてください。また、生じた疑問はそのまま放置しないで解決すること。

履修上の注意

本科目は必修科目のため毎回の授業で出席を確認します。また、静穏な教室環境の下で円滑に授業を進行するため、授業中の私語禁止等の常識的な受講マナーの順守を求めます。配付資料等を紛失しないよう整理して適切に管理すること。

テキスト

「臨床検査学講座（第2版）解剖学」（医歯薬出版）佐藤健次 著
※進行に沿って資料（プリント）を随時、配付します。

参考文献

「日本人体解剖学（改訂19版）」（上・下巻）（南山堂）金子丑之助 原著
「プロメテウス解剖学アトラス」（全3巻）（医学書院）坂井建雄、河田光博、大谷 修、松村讓
兒 監訳
「入門組織学（改訂第2版）」（南江堂）牛木辰男 著

オフィスアワー

毎週水曜日の放課後（16:30～18:00）

研究室

管理棟2階201研究室

授業用E-mail

ktohya@kansai.ac.jp

講義コード	1R195025
講義名	人体の構造 II
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	3 時限
科目分類・分野名	人体の構造と機能
科目ナンバリング	R1-2002
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 東家 一雄	指定なし

担当教員

東家一雄

講義の目的

人体の構造は医療系教育の初期段階で学ばねばなりません。なぜなら、臨床検査技師としてヒトの検体を取り扱うには、身体をつくる要素（細胞、組織、臓器など）の形や構造、配置などを正しく理解しておく必要があるからです。この授業ではヒトの身体の構造を系統的に取り扱う人体系統解剖学に関して、特に内臓系、神経系、感覚器系の成り立ちについて学ぶことを目的とします。

到達目標

本科目を学ぶことにより、ヒトの身体は細胞から器官系に至る諸要素が構造的に調和と関係を保ちながら成り立っていることを理解して、その諸要素の構造について体系的に、かつミクロとマクロの多角的視点から考察できるようになることを目指します。また、受講生が人体解剖学という学問領域への関心を深めて自ら積極的に学修する姿勢を身につけ、学んだ知識を他の専門科目の理解につなげる基礎にして欲しいと考えています。

授業計画表

授業計画

- 第1回 呼吸器系①（鼻、咽頭、喉頭）
- 第2回 呼吸器系②（気管、気管支、肺）
- 第3回 消化器系①（総論、口腔）
- 第4回 消化器系②（咽頭、食道、胃、小腸）
- 第5回 消化器系③（大腸、肝臓、胆嚢、膵臓）
- 第6回 内分泌系①（下垂体、松果体、甲状腺）
- 第7回 内分泌系②（上皮小体、副腎、性腺、膵臓）
- 第8回 生殖器系①（男性生殖器）
- 第9回 生殖器系②（男性生殖器、女性生殖器）
- 第10回 泌尿器系①（腎臓）
- 第11回 泌尿器系②（尿管、膀胱、尿道） 神経系①（大脳）
- 第12回 神経系②（小脳、間脳、中脳、橋、延髄、脳室）

- 第13回 神経系③ (脊髄、脳神経)
第14回 神経系④ (脊髄神経、自律神経)
第15回 感覚器系 (視覚器、聴覚器)

成績の評価

第8回の授業中に実施を予定している中間テストの成績 (50%) と定期試験期間中に行う筆記試験の成績 (50%) に基づき評価します

自己学習

授業の進行に沿って主体的かつ積極的に予習と復習を行い、授業内容をよく理解、吸収するよう各自が努めてください。また、生じた疑問はそのまま放置しないで解決すること。

履修上の注意

本科目は必修科目のため毎回の授業で出席を確認します。また、静穏な教室環境の下で円滑に授業を進行するため、授業中の私語禁止等の常識的な受講マナーの順守を求めます。配付資料等を紛失しないよう整理して適切に管理すること。

テキスト

「臨床検査学講座 (第2版) 解剖学」 (医歯薬出版) 佐藤健次 著
※進行に沿って資料 (プリント) を随時、配付します。

参考文献

「日本人体解剖学 (改訂19版)」 (上・下巻) (南山堂) 金子丑之助 原著
「プロメテウス解剖学アトラス」 (全3巻) (医学書院) 坂井建雄、河田光博、大谷 修、松村讓
兒 監訳
「入門組織学 (改訂第2版)」 (南江堂) 牛木辰男 著

オフィスアワー

毎週水曜日の放課後 (16:30~18:00)

研究室

管理棟2階201研究室

授業用E-mail

ktohya@kansai.ac.jp

講義コード	1R196013
講義名	人体の構造実習
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	人体の構造と機能
科目ナンバリング	R1-2003
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 東家 一雄	指定なし

担当教員

東家一雄

講義の目的

本科目ではヒトの骨標本や正常組織のプレパラートを教材に用いた実習を行います。顕微鏡実習では、人体の構造Ⅰおよび人体の構造Ⅱで学んだヒトの主要臓器の細胞、組織がもつ形態や内部構造、機能に関する体系的な知識について、より具体的に理解を深めていくことを目的とします。

到達目標

標本の観察を通して人体の実際を構成する構造の実際を知ると同時に、人体の構造Ⅰおよび人体の構造Ⅱで学んだ知識を基盤に実際の細胞、組織構造を読み解く力を身につけ、人体の構造に関してミクロおよびマクロの視点から多角的考察ができるようになることを目指します。また、光学顕微鏡の操作やメンテナンス、プレパラートの取扱いなど、臨床検査技師に不可欠となる基礎技術を身につけることも目指します。

授業計画表

授業計画

- 第1回 実習の進行説明と諸注意 (2クラス合同)
 ※以下はAクラスとBクラスが隔週で2コマずつ実習を行います。
- 第2回 骨標本観察 (Aクラス)
 第3回 骨標本観察 (Bクラス)
 第4回 組織標本観察 (Aクラス) / 顕微鏡の操作、循環器系
 第5回 組織標本観察 (Bクラス) / 顕微鏡の操作、循環器系
 第6回 組織標本観察 (Aクラス) / 呼吸器系
 第7回 組織標本観察 (Bクラス) / 呼吸器系
 第8回 組織標本観察 (Aクラス) / 消化器系①
 第9回 組織標本観察 (Bクラス) / 消化器系①
 第10回 組織標本観察 (Aクラス) / 消化器系②
 第11回 組織標本観察 (Bクラス) / 消化器系②
 第12回 組織標本観察 (Aクラス) / 泌尿器系、リンパ系

第13回 組織標本観察 (Bクラス) /泌尿器系、リンパ系

第14回 組織標本観察 (Aクラス) /内分泌系、神経系

第15回 組織標本観察 (Bクラス) /内分泌系、神経系

成績の評価

毎回の授業終了後に提出を求める実習ノートの評価 (60%)、および定期試験期間中に行う筆記試験の成績 (40%) に基づき評価します。

自己学習

人体の構造Ⅰおよび人体の構造Ⅱの授業で学んだ内容をよく復習しておくほか、本科目のテキストの該当部分を読みこみ、予め配付される実習用資料を予習してから実習に臨むこと。

履修上の注意

本科目は必修科目のため毎回の授業で出席を確認します。また、クラスごとに隔週で実施する2週目以降については実施日程に注意して、欠席により定期試験の受験資格を喪失しないようにすること。実習作業に際しては各自が集中した環境の下で観察に取り組めるよう、受講生には常識的な受講マナーを求めています。なお、実習中は学科で定められた白衣とネームプレートを着用してください。

テキスト

「入門組織学 (改訂第2版)」 (南江堂) 牛木辰男 著

参考文献

「標準組織学総論 (第4版)」 (医学書院) 藤田恒夫、藤田尚男 著

「標準組織学各論 (第3版)」 (医学書院) 藤田恒夫、藤田尚男 著

「臨床検査学講座 (第2版) 解剖学」 (医歯薬出版) 佐藤健次 著

オフィスアワー

毎週水曜日の放課後 (16:30~18:00)

研究室

管理棟2階201研究室

授業用E-mail

ktohya@kansai.ac.jp

講義コード	1R219011
講義名	生化学 I
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	2 時限
科目分類・分野名	医学および医学検査の基礎とその疾病との関係
科目ナンバリング	R1-2103
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大西 基代	指定なし

講義の目的

生化学とは、生命現象を化学的に知ろうという学問で、医学の基礎を築く学問でもある。この授業では、生体がどのような物質でつくられ、それらがどのような意味を持っているのかが理解できる事を目的とします。

到達目標

重要な生体成分の構造の特徴，機能を理解し，分類できるようになる。

授業計画表

授業計画

1. 総論(生命現象と生化学，生体の構成成分)
2. 糖質の構造(単糖類)
3. 糖質の構造(二糖類と多糖類)
4. 糖質の構造と機能(グルコースの誘導体)
5. 脂質の構造(分類) 糖質の小テスト
6. 脂質の構造と機能
7. アミノ酸の構造と機能 脂質の小テスト
8. タンパク質の構造と機能
9. タンパク質の構造と機能
10. 核酸・ヌクレオチド アミノ酸の小テスト
11. ビタミンの種類と機能
12. 酵素の特徴について
13. 酵素反応と反応速度
14. 酵素反応と反応速度(阻害剤など)酵素の小テスト
15. 水・無機質

成績の評価

定期試験にて成績評価します。

自己学習

基礎医学や専門領域の共通基盤となる基礎知識ですから，受講後は充分復習を行って下さい。参

考文献で紹介したワークブックなどを利用して下さい。

履修上の注意

試験、出席の取り方など詳細は第1回目の授業で説明をします。配布プリントは定期試験時に必要となりますので必ず保管をしてください。再配布はしません。

テキスト

『コンパクト生化学』改訂第4版 大久保岩男 他著（南江堂）

参考文献

『生化学』阿部喜代司，他著（医歯薬出版）
『生化学ガイドブック改訂第3版増補』遠藤克己 他著（南江堂）
『シンプル生化学』改訂第6版林典夫 他監修（南江堂）
『集中講義生化学』鈴木敬一郎 著（メジカルビュー社）
栄養科学イラストレイテッド『生化学改訂第2版』園田勝 編（羊土社）
『生化学ワークノート』中本伊知郎 著（メディカ出版）
『生物・生化学・分子生物学』田村隆明 著（南山堂）

研究室

管理棟 2階209研究室

授業用E-mail

onisi@kansai.ac.jp

講義コード	1R221015
講義名	生涯スポーツⅠ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1207
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 相澤 慎太	指定なし

講義の目的

慢性的な運動不足による体力の低下は身体にゆがみを引き起こし、様々な疾病の原因となることが知られている。生涯スポーツⅠではこれらの疾病の予防・改善に有効なスポーツ・運動を適時実践し、生活の中に意識的に運動を取り入れて行けるようにすることを目的とする。

到達目標

それぞれのスポーツの、意味を理解する、楽しめるようになる、生涯にわたって実践して行けるようになる。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス
2. ソフトボールの実践①
3. ソフトボールの実践②
4. ソフトボールの実践③
5. ソフトボールの実践④
6. ソフトボールの実践⑤
7. ソフトボールの実践⑥
8. ソフトボールの実践⑦
9. 卓球の実践①
10. 卓球の実践②
11. 卓球の実践③
12. バドミントンの実践①
13. バドミントンの実践②
14. バドミントンの実践③
15. バドミントンの実践④

成績の評価

平常点50% 学習到達度30% 取り組み姿勢20%

自己学習

予習はいらませんが、復習として、動きの再確認を行うこと。

履修上の注意

- ・スポーツ用具は大切に扱う習慣をつけること。
- ・服装は動きやすい、授業にふさわしいものを着用すること。
- ・体育館内は土足厳禁のため、体育館専用のシューズを用意する。
- ・現金などの貴重品の取り扱いには十分注意し、各自で管理する。
- ・ピアス、ネックレス、指輪、腕時計等の貴金属品は他人及び自己の危険防止のため身につけない。
- ・遅刻は1回を1 / 3欠席として計算する。

研究室

313研究室

授業用E-mail

aizawa@kansai.ac.jp

講義コード	1R222015
講義名	生涯スポーツⅡ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1208
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 相澤 慎太	指定なし

講義の目的

筋力やバランス能力の低下が進むと行動が制限されるばかりでなく、転倒による骨折の可能性、ひいては歩行困難を来す可能性が高まってくる。生涯スポーツⅡでは、体力の維持、増進に有効である様々なトレーニング、体操およびスポーツの実践を通して、心身の良好な状態を維持する知識と技能を学ぶとともに、スポーツの楽しみ方を身につける。

到達目標

それぞれのスポーツの、意味を理解する、楽しめるようになる、生涯にわたって実践して行けるようになる。

授業計画表

授業計画

- 【合同授業】（相澤、渡辺）
ガイダンス 筆記用具を用意し、指定された教室に私服で集合。（第2週から選択する種目を決定する。）
【運動ゲームコース】（担当：相澤）
- ソフトボールの実践①
- ソフトボールの実践②
- ソフトボールの実践③
- ソフトボールの実践④
- ソフトボールの実践⑤
- ソフトボールの実践⑥
- ソフトボールの実践⑦
- 卓球の実践①
- 卓球の実践②
- 卓球の実践③
- 卓球の実践④
- 卓球の実践⑤
- 卓球の実践⑥
- 卓球の実践⑦

成績の評価

平常点50%・学習到達度30%・取り組み姿勢20%

自己学習

予習はいらないが、復習として、動きの再確認を行うこと。

履修上の注意

- ・スポーツ用具は大切に扱う習慣をつけること。
- ・服装は動きやすい、授業にふさわしいものを着用すること。
- ・体育館内は土足厳禁のため、体育館専用のシューズを用意する。
- ・現金などの貴重品の取り扱いには十分注意し、各自で管理する。
- ・ピアス、ネックレス、指輪、腕時計等の貴金属品は他人及び自己の危険防止のため身につけない。
- ・遅刻は1回を1／3欠席として計算する。

研究室

313研究室

授業用E-mail

aizawa@kansai.ac.jp

講義コード	1R224011
講義名	生物有機化学Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	医学および医学検査の基礎とその疾病との関係
科目ナンバリング	R1-2101
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 多中 良栄	指定なし

担当教員

多中 良栄

講義の目的

生体を構成する基本的な物質である有機化合物の性質や反応性を理解すること。

到達目標

基本的な有機化合物の構造を理解し分類・命名ができること。アルカン、アルケン、芳香族化合物、アルコール、アミン、カルボニル化合物など代表的な官能基をもつ有機化合物の性質や反応性を理解すること。

授業計画表

授業計画

1. 有機化学の基礎と化学結合
2. 有機分子の官能基と性質、命名法
3. 有機分子の形 1
4. 有機分子の形 2
5. アルカンの反応
6. アルケンの反応
7. 芳香族化合物の反応
8. ハロゲンを含む化合物の反応
9. アルコールとエーテルの反応
10. アミンの反応
11. アルデヒドとケトンの反応
12. アルデヒドとケトンの反応
13. カルボン酸とその誘導体の反応
14. カルボン酸とその誘導体の反応
15. アルドール反応

成績の評価

定期試験 80% ・ 演習課題 20%

自己学習

テキストの該当箇所を予習すること。復習として配布した問題を解くこと。

履修上の注意

講義はテキスト、パワーポイント、配布資料などを用いて行う。各講義中に演習時間を設け、講義終了時に解答の提出を求める。

テキスト

「生命系の基礎有機化学」
(化学同人) 赤路健一、福田常彦著

参考文献

「ブルース有機化学概説」
(化学同人) Paula Y. Bruice 著 大船泰史・香月 勲・西郷和彦・富岡 清 監訳

講義コード	1R225011
講義名	生物有機化学Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	医学および医学検査の基礎とその疾病との関係
科目ナンバリング	R1-2102
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 多中 良栄	指定なし

担当教員

多中 良栄

講義の目的

生体を構成する基本的な物質である有機化合物の性質や反応性を理解すること。

到達目標

生体内に存在する有機化合物について、その構造や性質を有機化学の観点から理解すること。

授業計画表

授業計画

1. カルボニル化合物の反応
2. 高分子化合物の生成反応
3. 脂質の構造と性質 1
4. 脂質の構造と性質 2
5. 脂質の構造と性質 3
6. アミノ酸・タンパク質の構造と性質 1
7. アミノ酸・タンパク質の構造と性質 2
8. アミノ酸・タンパク質の構造と性質 3
9. アミノ酸・タンパク質の構造と性質 4
10. 糖の構造と性質 1
11. 糖の構造と性質 2
12. 糖の構造と性質 3
13. 核酸の構造と性質 1
14. 核酸の構造と性質 2
15. 核酸の構造と性質 3

成績の評価

定期試験 80%・演習課題 20%

自己学習

テキストの該当箇所を予習すること。復習として配布した問題を解くこと。

履修上の注意

生物有機化学Ⅰを履修していることが望ましい。講義はテキスト、パワーポイント、配布資料などを用いて行う。各講義中に演習時間を設け、講義終了時に解答の提出を求める。

テキスト

「生命系の基礎有機化学」
(化学同人) 赤路健一、福田常彦著

参考文献

「ブルース有機化学概説」
(化学同人) Paula Y. Bruice 著 大船泰史・香月 昶・西郷和彦・富岡 清 監訳

講義コード	1R226015
講義名	生命のしくみ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	5時限
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1102
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 荒川 裕也	指定なし

担当教員

荒川 裕也

講義の目的

臨床検査学専門教科の導入として、最低限知っておきたい知識を習得させる。

到達目標

臨床検査学における生物学的基礎知識の習得

授業計画表

授業計画

- 1.細胞
- 2.無機質
- 3.糖質
- 4.脂質
- 5.タンパク質
- 6.核酸
- 7.酵素
- 8.防御タンパク質 (免疫)
- 9.遺伝子 (DNAとRNA)
- 10.遺伝子からタンパク質へ
- 11.遺伝子異常
- 12.糖代謝
- 13.脂質代謝
- 14.タンパク質代謝
- 15.臓器のはたらき

成績の評価

試験のみで評価する。

自己学習

教科書・講義資料を十分に活用して、各々の項目を体系的に整理しながら学習を行うこと。

履修上の注意

本科目で学習する内容は、臨床検査学専門科目において最低限の知識であるため、理解が追いつかない場合は、必ず担当教員まで聞きに来ること。

テキスト

はじめの一步の生化学・分子生物学 第3版（前野正夫、磯川桂太郎著）

オフィスアワー

水曜日 昼休み

研究室

2号館臨床検査学科教員室（セミナー室）

授業用E-mail

arkw_u@hotmail.com

講義コード	1R229015
講義名	生命の化学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1104
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 岩橋 秀夫	指定なし

担当教員

岩橋 秀夫

講義の目的

臨床検査学には化学を基礎とする専門科目が多い。本講義は分析化学（2年次）、生化学（1－2年次）、臨床化学（2年次）を修得するための基礎化学の修得を目指す。

到達目標

化学の基本知識の修得を通して、臨床検査学を学ぶための基礎知識及び思考力を修得する。

授業計画表

授業計画

1. 原子の構造（1）
2. 原子の構造（2）
3. 周期表
4. 化学結合（1）
5. 化学結合（2）
6. 数値の扱い方
7. 原子量、分子量およびモルの概念
8. 溶解度
9. 溶液の濃度（1）
10. 溶液の濃度（2）
11. コロイド
12. 浸透圧
13. 化学反応（1）
14. 化学反応（2）
15. まとめ

成績の評価

小テスト（30%）、定期試験（60%）、平常点（10%）

自己学習

教科書の該当する章を予習し、授業中に課した演習問題を復習しておいて下さい。

履修上の注意

基本的な事柄を十分な時間をかけ説明してゆくので、その内容を確実に身につけて、階段を一段ずつ着実に登って、最後には目的の最上段に達してください。

テキスト

配布資料による

参考文献

「臨床講座学講座化学」(医歯薬出版株式会社) 岡崎 三代・奈良 雅之 共著

「たのしくわかる化学」(東京化学同人) 斎藤勝裕 著

ステップアップ 大学の総合化学(裳華房) 斎藤勝裕 著

講義コード	1R230016
講義名	生命倫理
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1201
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 宗平	指定なし
非常勤	矢本 希夫	指定なし

担当教員

吉田宗平、矢本希夫

講義の目的

生命倫理という言葉の歴史は比較的浅く、英語のbioethicsが初めて使われたのは1970年頃である。生命倫理とは、近年の生命科学と医療技術の画期的発展により、生命と医療に関して生じてきた様々な倫理的、社会的問題について議論し、研究することを目的とするもので、医療系学生にとって学ぶべき必須の科目である

到達目標

生命倫理の領域は、医療従事者と患者・一般市民とが医療の在り方について対等の立場で議論しあう場であるので、将来、医療人として、生命の尊厳を守る立場に相応しい素養を身に付けることを目標とする。

授業計画表

授業計画

<吉田担当>

- 1.生命倫理の歴史と今日的課題 (その1)
- 2.生命倫理の歴史と今日的課題 (その2)
- 3.患者にとっての医療—インフォームドコンセントとは?
- 4.終末期と死をめぐる倫理 (その1)
- 5.終末期と死をめぐる倫理 (その2)
- 6.終末期と死をめぐる倫理 (その3)
- 7.先端医療技術と倫理 (その1)
- 8.先端医療技術と倫理 (その2)
- 9.先端医療技術と倫理 (その3)
- 10.医学研究と倫理

<矢本担当>

- 11.出生をめぐる生命倫理 (その1)
- 12.出生をめぐる生命倫理 (その2)

13. 出生をめぐる生命倫理 (その3)
14. 出生をめぐる生命倫理 (その4)
15. 出生をめぐる生命倫理 (その5)

成績の評価

定期試験あるいはレポートにより評価する。

1. 授業計画1～10 (吉田担当) についてはレポート評価にて60点配分。
2. 授業計画11～15 (矢本担当) については試験評価にて40点配分。
3. 以上を合計して100点満点に換算して成績を評価する。

自己学習

配布した講義資料や以下に掲げた参考図書を利用すること。

履修上の注意

将来の医療人を目指す上での倫理感と責任感を修得する。自分でよく考えること。

テキスト

講義時に配布する資料にて行う。

参考文献

- 「生命倫理と医療倫理」(金芳堂)伏木信次他編
- 「生命倫理への招待」(金芳堂)塩野寛、清水恵子著
- 「学生と考える倫理」(ナカニシヤ出版)金子章道、金内雅夫、川田田美著
- 「看護学生のための倫理学」(金芳堂)攻訂2版高谷修著

オフィスアワー

月曜日昼休み時間 (12:30～13:30)

研究室

理棟2階学長室 (吉田)

授業用E-mail

yoshida@kansai.ac.jp

講義コード	1R261012
講義名	中国語Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1306
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 橋本 知佳	指定なし

担当教員

橋本 知佳

講義の目的

初めて中国語に触れる方を対象に学ぶ中国語の入門編です。中国語を習得するために、まず、基礎となる中国語表音ローマ字(ピンイン)の発音を徹底的に指導し、簡体字や機能語及び簡単な構文法を会話で練習しながら、少しずつ身に付けるよう勉強しておきます。

到達目標

授業毎に個別に発音、会話の確認を行い、中国語の学習の基盤を作っておく事が目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 中国語について、受講する際の注意点について
2. 第1課 発音 単母音と声調 音節の特殊ルール①
3. 授業の復習、会話練習
4. 第2課 発音 二重母音、三重母音、声調付け位置 音節の特殊ルール②
5. 授業の復習、会話練習
6. 第3課 子音① 有気音と無気音 音節の特殊ルール③
7. 子音と母音の組み合わせを練習、会話練習

8. 第4課 子音② 反り舌音と鼻母音 音節の特殊ルール④

9. 授業の復習、会話練習

10. ピンインのまとめ、実用練習 & 発音確認 個別発音確認

11. 第5課 出迎える

12. 授業の復習、会話練習、本文を個別朗読

13. 第6課 歓迎パーティ

14. 授業の復習、会話練習、本文を個別朗読

15. まとめ復習、確認練習

成績の評価

学習態度、出席状況、宿題の提出、授業中に積極した発言・発表は平常点とし、期末試験及び課題作り・発表の成績などにより総合的に評価する。

自己学習

事前にテキストの内容を確認し、本文を写す。授業を受ける条件として、教科書を持参すること。

履修上の注意

出席状況は授業毎に名前を中国語の発音で出席を取り、座席は学籍番号順で決める。授業中に許可なしに退出した場合は、如何な理由にしても早退とする。20分以上の遅刻、遅刻3回・教科書忘れ1回で欠席とする。私語厳禁、携帯電話の使用、ほかの教科を学習した場合、授業を辞退したとする。毎課ごとに個別発音、会話の確認の採点があり、欠席した場合も、必ずその課の習得度確認を受ける。詳細事項は開講時に説明する。

テキスト

「しゃべっていいとも中国語」朝日出版社

参考文献

必要時は授業中に指示する。

講義コード	1R264013
講義名	東洋医学と西洋医学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1211
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 戸田 静男	指定なし

担当教員

戸田 静男

講義の目的

明治新政府の漢方廃絶により東洋医学(漢方医学)は非公認となった。それ以降、日本の医学、医療の主流は西洋医学となった。しかし、近年東洋医学が見直され、現在では医学、医療の一部となった。その傾向は、ますます拡大されてきている。そして、その波は世界各国に広がっている。このようなことから、東洋医学の基礎概念を解説して行きながら、西洋医学の分野で東洋医学がどのように反映されているのかを講義してゆく。

到達目標

東洋医学と西洋医学の全体像を俯瞰しながら、医学や医療について論じ議論し合えることを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 現代医学における東洋医学の位置づけ
2. 東洋医学と西洋医学の違い
3. 東洋医学の基本構造
4. 漢方方剤の基本概念
5. 東洋医学における証
6. 東洋医学における病態把握 陰陽虚実表裏寒熱
7. 東洋医学的診断 望、聞、問、切
8. 東洋医学的病因 気、血、水
9. 東洋医学的治療
10. 鍼灸の基本概念
11. 鍼灸の病態把握
12. 鍼灸治療
13. 東洋医学と相補・代替医学
14. 東洋医学と世界の伝統医学
15. 今後の医学、医療における東洋医学と西洋医学

成績の評価

課題レポート70%、平常点30%

自己学習

授業後復習をしっかりとしてもらえば結構である。

履修上の注意

毎回テーマを決めて講義をする。しっかりと授業内容を把握してもらえば結構である。

テキスト

なし。教材としてプリントを配布する。

参考文献

特になし。講義中に参考図書を紹介する。本学図書館の書籍を大いに参考、活用してほしい。

講義コード	1R302011
講義名	病理学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	医学および医学検査の基礎とその疾病との関係
科目ナンバリング	R1-2110
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 矢野 恵子	指定なし

担当教員

矢野恵子

講義の目的

病理学とは、疾病の原因、なりたち、発生機序を明らかにする学問である。臨床検査の実践に活かすための知識を得、疾病の本質を理解することに繋げる。

病理学では、臓器の肉眼的観察、組織や細胞の顕微鏡的観察により、疾病の原因や発生機序を解明し、診断する。また、疾病の経過、転帰、治療への反応の程度なども推定する。医療職として、疾病の成り立ちに関する基礎知識を得ることは必要不可欠なことであり、その病因ごとに学習し理解を深める。

到達目標

疾病の本質を理解するための基礎を身につける。

授業計画表

授業計画

1. 病理学総論
2. 染色体・遺伝子・発生の異常
3. 組織細胞障害とその修復機構①
4. 組織細胞障害とその修復機構②
5. 組織細胞障害とその修復機構③
6. 物質代謝障害①
7. 物質代謝障害②
8. 循環障害①
9. 循環障害②
10. 炎症①
11. 炎症②
12. 免疫異常①
13. 免疫異常②
14. 腫瘍①
15. 腫瘍②

成績の評価

学期末試験の成績で評価する。

自己学習

講義の前後にテキストの予習、復習をすること。

履修上の注意

解剖学、生理学などの知識が病理学の理解には必要であるので、復習をして講義に臨むこと。

テキスト

「臨床検査講座 病理学/病理検査学」(医歯薬出版)

参考文献

「標準病理学」(医学書院)

「シンプル病理学 第7版」(南江堂)

講義コード	1R310015
講義名	物質と自然のしくみ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1103
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中村 正信	指定なし

担当教員

中村正信

講義の目的

複雑な現代人の生活も自然現象の中で営まれている。医療従事者による、身体ケアの場面や検査・治療・処置の場面においても、自然の法則とは無関係ではない。そこで物質と自然の法則を中心に学び、細かい事項を暗記するのではなくて、前提から導き出す結論に大きな誤りが起こらない力を身に付ける。これは専門科目を学ぶ上で基礎となる。

到達目標

この授業で使用するテキストは、高校で物理をあまり学習しなかった場合でも、自然現象の見方を把握して定性的な理解ができるように書かれたもので、数式をほとんど使わずに説明するよう配慮されている。授業ではできるだけ身の回りの事象を題材に取り上げることにより、身近な現象を見る目と科学する心を持つことを目指す。合わせて、専門科目で具体例を学んだ場合に、その内容が理解できるような基礎力を身につける。

授業計画表

授業計画

1. はじめに、狙い、進め方
2. 物理量と物理法則、単位
3. 力とその性質、万有引力と重力
4. 摩擦力と抵抗、力のつり合い、水圧・気圧
5. 速度と加速度
6. 運動の法則
7. 等速円運動、単振動、運動量と力積
8. 仕事、運動エネルギー、位置エネルギー
9. 熱と温度、内部エネルギー、熱力学の法則
10. 波の性質、音波、光波
11. 電荷、クーロンの法則、電流
12. 回路と起電力、オームの法則
13. 磁石と磁場、電流と磁場、電磁誘導

14. 原子の構造、波か粒子か

15. 原子核の崩壊と放射線、核エネルギー

成績の評価

試験約66%・授業中のミニレポート約30%・平常点約4%

自己学習

高校で物理を履修していない学生は、テキストにあらかじめ目を通し、特に物理量の名称や記号に注意すること。学習においては、わからない箇所をノートに記入し、「どこまでわかって、どこがわからないか」を見直すことを薦める。

履修上の注意

この講義はこれまで物理的な思考法になじんでこなかった学生も対象としている。デモや実験も行う予定であり、積極的に取り組むことを期待する。各講義の中に基本的な演習問題を解く時間をとる。問題の答えを覚えるのではなく、考え方を理解できることが重要である。なおミニレポートは関連することを必ず書いて提出すること。

テキスト

「自然科学の基礎としての物理学」（学術図書出版社）原康夫著

参考文献

学生毎に状況が違うので直接担当教員に相談するのが良い。

例としては次のような本がある。

特に最初から勉強しようとする学生向け

「まるわかり！基礎物理」（南山堂）桑子研著

数式も避けずに勉強しようとする学生向け

「物理学がわかる」（技術評論社）川村康文著

オフィスアワー

木曜日放課後（17:00～18:30）

なお希望者は予めE-mail等で場所を確認してください。

授業用E-mail

nakamura@kansai.ac.jp

講義コード	1R329012
講義名	法の基礎知識（日本国憲法）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1202.1
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 池田 裕明	指定なし

担当教員

池田 裕明

講義の目的

法学の基礎的知識日本国憲法について解説することをこの講義の目的とする。しかし、何も難しいことを講義しようとするものではない。むしろ、我々の日常生活の中にいかに多くの法律関係・法律問題が存在しているかということ、伝統的な法学の体系に即した講義を行うことにより、理解してもらいたいと考えている。現実の生活を法的に理解・説明できる素養を習得しようとするものである。

形式としては、通常の講義形式で行う。内容としては、プロローグとして、六法の使い方等について解説したうえで、法の本質、法の種類、裁判制度等の、いわゆる法学の総論的な問題および日本国憲法を扱う。

到達目標

学生諸君の将来の進路に鑑み、可能な限り、医事的・時事的問題もとりあげたい。

授業計画表

授業計画

1. プロローグ
2. 法とは何か
3. 日本国憲法 1 日本国憲法と明治憲法
4. 日本国憲法 2 国会
5. 日本国憲法 3 内閣
6. 日本国憲法 4 裁判所
7. 日本国憲法 5 基本的人権
8. 日本国憲法 6 基本的人権
9. 日本国憲法 7 基本的人権
10. 日本国憲法 8 地方自治
11. 家族と法
12. 医療と法
13. 犯罪と法

14. 労働と法

15. エピローグ

成績の評価

成績評価は、期末とミニツツペーパーおよびレポート等。
なお、詳細については、第1回目の講義において説明する。

履修上の注意

講義形式という制約から、どうしても一方的講義とならざるを得ないが、受講者とのコミュニケーションをはかるために、ミニツツペーパーを随時実施する。このミニツツペーパーでは、課題に答えてもらうと共に、受講者から質問、疑問を提起してもらうことで、それらの問題を講義にとり入れていきたいと考えている。なお、このミニツツペーパーは成績評価の際に、資料の一つとして利用する。さらに、このミニツツペーパーは出席調査の意味ももっている。

テキスト

「目で見える憲法」 (有斐閣)

「現代法学入門」 (有斐閣)

「ポケット六法 (2017年)」 (有斐閣)

参考文献

講義において紹介する

講義コード	1R356011
講義名	臨床検査学総論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	医学および医学検査の基礎とその疾病との関係
科目ナンバリング	R1-2112
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 近藤 弘	指定なし

担当教員

近藤 弘、竹田知広、上北宏美、山西八郎、塩崎尚子

講義の目的

臨床検査の役割と仕事の概要、臨床検査の対象と範囲、臨床検査技術および臨床検査管理の概説、臨床検査の利用のされ方とその有用性について理解する。採血行為をはじめとする検体採取に関わる関係法規の概要を理解する。採血法の手技と検体の取り扱い法、留意点を理解する。その他検体の取り扱い法を理解する。医療統計の基礎を理解し実際に利用できることを目的とする。

到達目標

1. 臨床検査の使命と役割を概説できる。
2. 臨床検査の役割と仕事の概要を簡潔に述べるができる。
3. 採血業務の法的背景を述べるができる。
4. 採血手技、留意点を述べるができる。
5. 各種検体の取り扱い法を述べるができる。
6. 統計学の基礎（基本統計量・正規分布・相関と回帰・判別特性とROC解析）を簡潔に説明できる。
7. 統計的仮説検定を行うことができる。

授業計画表

授業計画

1. 臨床検査概論Ⅰ ガイダンス, 臨床検査の使命と役割
2. 臨床検査概論Ⅱ 医療の中での臨床検査
3. 臨床検査概論Ⅲ 医療の中での臨床検査
4. 採血法Ⅰ
5. 採血法Ⅱ
6. 採血法Ⅲ
7. 臨床検査検体の取り扱いⅠ 尿・糞便・喀痰
8. 臨床検査検体の取り扱いⅡ 胃液・膵液・十二指腸液・脳脊髄液・穿刺液など
9. 医療統計の基礎Ⅰ 総論：医療における統計学の必要性 基本統計量①

- | | |
|-------------|----------------|
| 10.医療統計の基礎Ⅱ | 基本統計量② 正規分布の性質 |
| 11.医療統計の基礎Ⅲ | 回帰と相関 |
| 12.医療統計の基礎Ⅳ | 判別特性とROC解析 |
| 13.医療統計の基礎Ⅴ | 統計的仮説検定① |
| 14.医療統計の基礎Ⅵ | 統計的仮説検定② まとめ |
| 15.まとめ | |

成績の評価

筆記試験90%、平常点10%

自己学習

事前学習：教科書（授業範囲）を読む。

事後学習：教科書とともに配付資料、板書内容を確認して、要点を整理する。

履修上の注意

授業の最初に配布する資料を毎回持参すること

テキスト

「JAMT技術教本シリーズ 検体採取のためのハンドブック」 監修：一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 発行：じほう
「基礎からの統計学【改訂増補版】」 著者：山西八郎，発行：株式会社情報機構

参考文献

「臨床検査法提要」金井正光 監修（金原出版）

オフィスアワー

月曜日 昼休み

研究室

2号館2階

授業用E-mail

hiro47kondo@gmail.com

講義コード	1R357011
講義名	臨床検査学入門
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	医学および医学検査の基礎とその疾病との関係
科目ナンバリング	R1-2111
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 近藤 弘	指定なし

担当教員

近藤 弘、竹田知広、大瀧博文、矢野恵子、後藤きよみ、荒川裕也

講義の目的

臨床検査の各検査領域を理解し、それらに必要となる基本技術を学ぶ。臨床検査技術は、科学的根拠に基づいて、人体からの情報を客観的に収集する技術である。その過程を遂行するための一般共通機器および器具について学ぶ。

なお、本科目は「キャリア教育科目」に指定されています。本学学生が、専門教育を学び資格を取得した上で、自らが卒業後の職業を選択し将来的にその現場で活躍、貢献できるよう当該科目の授業の一部で

「人間力」や「仕事力」が身に付くように支援します。

到達目標

1. 臨床検査の各検査領域を概説できる。
2. 臨床検査周辺器具の使用法、留意点を概説できる。
3. 臨床検査周辺装置の使用法、留意点を概説できる。
4. 臨床検査前処理装置の使用法、留意点を概説できる。
5. 電気化学装置、分離分析装置の測定原理、使用法、留意点を概説できる。

授業計画表

授業計画

1. 入門臨床検査学 ガイダンス、概論
2. 臨床検査領域Ⅰ：血液検査、免疫検査
3. 臨床検査領域Ⅱ：微生物検査、病理検査
4. 臨床検査領域Ⅲ：生体検査、遺伝子検査
5. 周辺器具装置：天びん、温度計、湿度計、
6. 測光装置：光度計Ⅰ
7. 測光装置：光度計Ⅱ
8. 周辺器具：計量器具Ⅰ
9. 周辺器具：計量器具Ⅱ
10. 周辺装置：顕微鏡Ⅰ

- 11.周辺装置：顕微鏡Ⅱ
- 12.周辺装置：純水装置、滅菌装置、恒温装置
- 13.電気化学装置・分離分析装置：pHメーター、電気泳動装置、クロマトグラフィ
- 14.前処理装置：遠心分離機、攪拌装置
- 15.まとめ・キャリア支援

成績の評価

筆記試験90%、平常点10%

自己学習

事前学習：必ず事前に実習内容について教科書で予習しておく。事後学習：実習ノートに必要な事項を書き足す。教科書、実習の手引き、配付資料、板書内容を確認して、要点を整理する。

履修上の注意

授業の最初に配布する実習の手引きを毎回持参する。

テキスト

標準臨床検査学 検査機器総論/検査管理総論, 編集 横田浩光他, 医学書院

参考文献

「臨床検査法提要」金井正光 監修 (金原出版)

オフィスアワー

月曜日昼休み

研究室

2号館2階

授業用E-mail

hiro47kondo@gmail.com